

特別企画 日韓国交正常化 60 周年記念  
「韓国美術の玉手箱—国立中央博物館の所蔵品をむかえて—」  
2026年2月10日(火)～4月5日(日) 東京国立博物館 本館特別1室・特別2室

東京国立博物館と韓国国立中央博物館は、昭和40年(1965)の日韓国交正常化から60年を迎えたことを記念し、韓国美術の展覧会を共同で開催いたします。

日本と韓国の歴史・文化は、互いに深く関わりあいながら発展してきました。両館は、それぞれを代表する国立博物館として、相互理解を一層深めるため平成14年(2002)に学術交流協定を結び、以来20年以上にわたって、研究員の相互派遣や共同調査、作品の相互貸借など多様な交流を積み重ねてきました。本展は、その成果の一つとして、両館が誇る所蔵の名品によって韓国美術の精華を紹介するものです。

日本での本展開催に先立ち、韓国国立中央博物館で日韓国交正常化60周年記念展「日本美術のとびら—四つのまなざし—」(2025年6月17日～8月10日)が開催され、両館選りすぐりの所蔵品を通じて日本美術の魅力が紹介されました。

本展においては第1章「高麗—美と信仰」で洗練を極めた高麗時代の仏教美術や金銀器・青磁等の作品計22件を、第2章「朝鮮王朝の宮廷文化」では華麗な宮廷絵画や服飾品など計11件の珠玉の作品をご堪能いただけます。日本初公開の文化財も数多く展示されるこの機会を通じて、韓国の歴史・文化の豊かさとその魅力を存分に味わっていただければ幸いです。

#### 【開催概要】

会 期 : 2026年2月10日(火)～4月5日(日)  
会 場 : 東京国立博物館 本館特別1室・特別2室  
開館時間 : 9時30分～17時00分 ※入館は閉館30分前まで  
金曜・土曜、2月22日(日)は20時まで開館  
休 館 日 : 月曜日(ただし2月23日、3月30日は開館)、2月24日(火)  
観 覧 料 : 本展は東博コレクション展観覧料でご覧いただけます。  
[一般]1,000円 [大学生]500円  
高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方、障がい者と  
その介護者各1名は無料

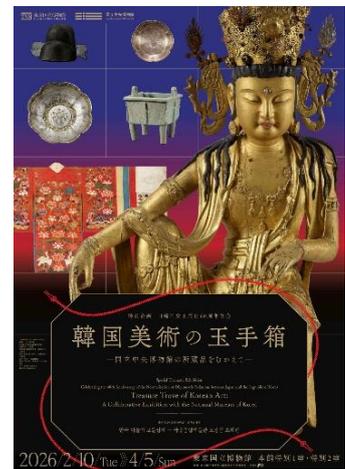
主 催 : 東京国立博物館、韓国国立中央博物館

後 援 : 日本芸術文化振興会

助 成 :  Japan  
Creator  
Support  
Fund

公式ウェブページ : [https://www.tnm.jp/modules/r\\_free\\_page/index.php?id=2735](https://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=2735)

お問い合わせ : 050-5541-8600(ハローダイヤル)



#### 【本展のみどころ】

- ① 韓国を代表する博物館である韓国国立中央博物館が自信をもって推薦する名品17件が来日。  
日本初公開15件を含む同館所蔵の至宝を東京でご覧いただけます。
- ② 東アジア世界で高く評価されてきた高麗の芸術文化の粋を堪能いただけます。厳粛な祈りの結晶である佛像・仏画・経典、貴族たちの豪華な趣味を映したきらめく金銀器、翡翠色が美しい青磁が一堂に会します。
- ③ 韓国ドラマでもおなじみの朝鮮王朝の宮廷文化の世界を、絵画や服飾品を通して追体験いただけます。
- ④ 展示構成や作品解説は、日韓両国を代表する東京国立博物館と韓国国立中央博物館の研究員が共同で担当。20年以上にわたる両館の学術交流の成果を、わかりやすく紹介します。

【本展の章構成と主な作品】 ※作品画像は No.5 と 12 を除き、すべて韓国国立中央博物館所蔵

## 第1章 高麗—美と信仰

王建(ワン・ゴン)によって建国された高麗(918~1392)は、後三国の混乱を終結させ、分裂していた三国を統一した王朝です。建国から間もなくして外勢の脅威や内乱など不安定な状況に直面しながらも仏教を国の理念として掲げ、国の安泰や救済への祈りを仏教美術へと昇華させました。

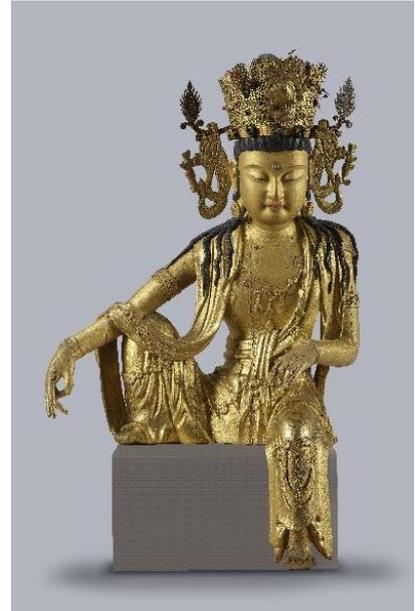
さらに高麗は自らの伝統文化を基盤に、周辺諸国の技術や様式を柔軟に取り入れ金銀器や青磁などの独自の美術工芸を生み出しました。貴族たちの洗練された趣味が反映された高麗の美術作品は、現在でも韓国美術を語るうえで欠かせない存在です。

画像 No.1

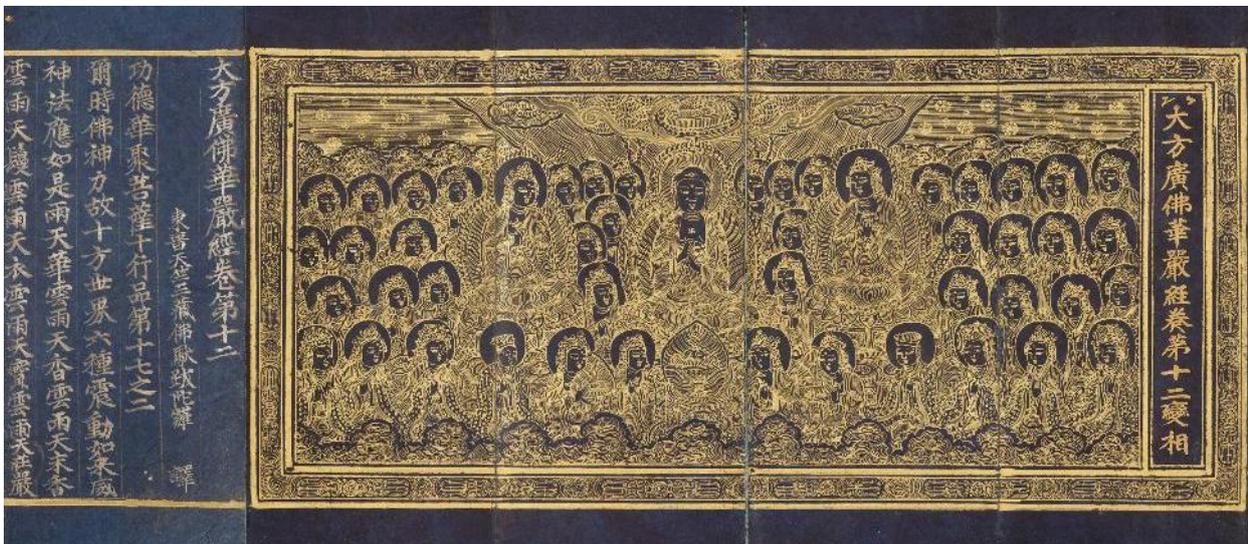
日本初公開

観音菩薩坐像 高麗時代・13世紀

左足を下に垂らし、右膝を立ててその上に腕を自然に掛けた、遊戯坐の姿勢をとる観音菩薩像。このような姿は絵画において描かれたものがありますが、立体による高麗時代の現存作例は本像が唯一です。最近の韓国国立中央博物館の調査により、材質はマツとモミであること、像の内部からは多数の納入品が発見され、造立年代を裏付けることができました。



画像 No.2



(部分)

日本初公開

大方広仏華嚴經 卷第十二 高麗時代・14世紀

『大方広仏華嚴經』は、『法華經』と並んで韓国仏教において最も重要な經典です。本作はその3種の漢訳本のうち60巻本の第12巻を、紺紙に銀泥で書写した折帖です。端正な楷書体の經文には、衆生の救済のために菩薩が実践すべき10の修行と、菩薩が具えるべき尽きることのない10の徳目が説かれています。表紙には花や蔓草文様を金銀泥で華やかに描き、『華嚴經』の本尊である智拳印を結ぶ毘盧遮那仏と眷属を描いた変相図が加えられ、仏の世界が表現されます。



### 宝物 銀製鍍金托盞

高麗時代・12 世紀

盃と台座からなる托盞で、銀地に金鍍金を施しています。盃と台座はいずれも 6 弁の花形で、盃には同じ花形の小さな脚が付いています。このような托盞は高麗時代に発達した喫茶文化のなかで茶を飲む際に用いられたと推定されます。

画像 No.3

日本初公開

### 青磁象嵌山水人物文扁壺

高麗時代・13～14 世紀

胴体が平たく押しつぶされた形の青磁の壺で、前後の 2 面に 8 葉の菱形の枠を設け、建物、人物、竹、鳥などを象嵌で表しています。竹林を背景に 2 階建ての瓦葺きの建物から庭に遊ぶ 2 羽の鷺鳥を見守る人物の姿は、中国の書聖・王羲之が鷺鳥を好んで観察したという故事を描く「観鵝図」に倣ったものと考えられます。



画像 No.4



### 青磁蓮唐草文瓶

高麗時代・12 世紀

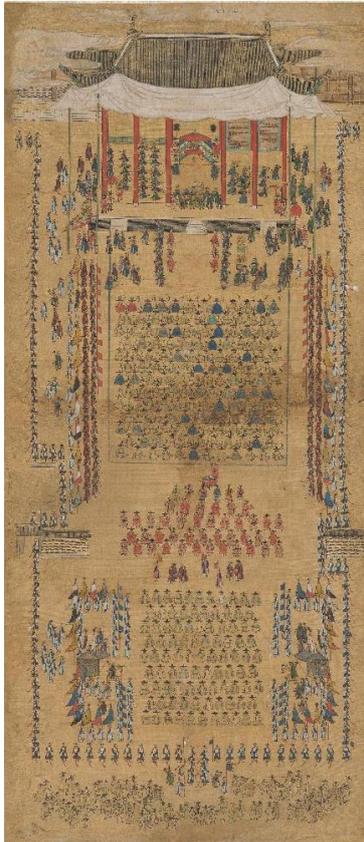
東京国立博物館蔵

10 世紀半ば、中国から製作技術が伝わったことにより、高麗時代に誕生した「高麗青磁」は、その後独自の進化をとげ、「翡色青磁」と呼ばれて称賛され、高麗だけでなく中国や日本など各地の人々を魅了していきました。この作品のように、小さな口に丸くゆるやかに張り出した肩をもつ器を俗に「梅瓶」といいます。端正で気品に満ちたたたずまいと、なめらかに溶けた緑色の青磁釉が大きな魅力です。よく見ると全体を覆うように蓮唐草の文様が丁寧に刻まれており、表現力豊かな線刻によって生み出された陰影は、この作品の美しさをいっそう引き立てています。

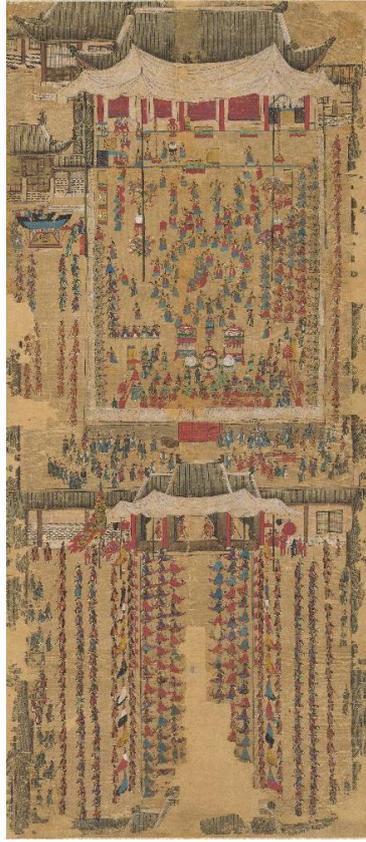
画像 No.5

## 第2章 朝鮮王朝の宮廷文化

朝鮮王朝(1392~1897)は儒教を統治の基盤とし、その理念は宮廷文化の形成にも大きな影響を与えました。宮廷の服飾は、身分秩序や儀式行事のあり方を明示するために厳格な規律のもとに整えられましたが、その一方で気品に満ちた宮廷人の姿を伝えています。また王の行事を描いた絵画など、宮廷で描かれた書画には王の威厳と秩序の美が表され、礼節と品格を重んじる朝鮮時代の価値観がうかがえます。こうした美意識は、今日の韓国美術に通じる特色として受け継がれています。



画像 No.8 (第4図)



画像 No.7 (第3図)

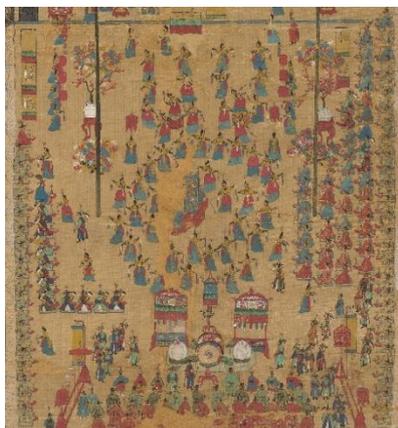


画像 No.6 (第1図)

日本初公開

華城園幸図屏風

(右より) 第1図 華城聖廟展拝図 / 第3図 奉寿堂進饌図 / 第4図 洛南軒養老宴図  
金得臣ほか筆 朝鮮時代・正祖 19年(1795)



画像 No.9

第22代王国の正祖(在位 1776~1800)が母の還暦にあたり、父の墓所を参拝し、華城に行幸した際の様子を描いた八曲屏風です。正祖は華城に到着すると、孔子を祀る郷校を訪れ(第1図)、儒教の統治を基盤する理念を示しました。第3図、4図では、母の還暦祝いや老人たちをもてなす養老宴を盛大に開催する様子が描かれ、両親と老人を尊重する儒教道徳を強調しています。

華城園幸図屏風 (第3図 奉寿堂進饌図・部分)

金得臣ほか筆 朝鮮時代・正祖 19年(1795)

華城行宮の奉寿堂にて、王母の還暦を祝って催された宴会の様子が描かれています。



闊衣 (背面)

画像 No.10

20 世紀初

日本初公開

闊衣はもともと朝鮮時代の宮中女性の礼服です。19 世紀末以降、一般の婚礼服として使用が許可され、親族に挨拶する際華麗な闊衣が着用できるようになりました。健康と長寿、幸福を祈る赤地に、多産を象徴する蓮、牡丹、不老草、鳳凰、白鷺、鴛鴦、蝶、岩、波など、吉祥の意味をもつモチーフが多彩に刺繍されています。



団領(官服)

画像 No.11

朝鮮時代・19 世紀

日本初公開

団領は朝鮮時代の官僚が平時の執務に着用した官服です。胸と背に付けた四角形の胸背が着用者の位を示します。朝鮮時代初期にはさまざまな色の表地がありましたが、次第に藍色や赤褐色に簡素化されました。本作は襟の幅や襟ぐりの形から朝鮮時代後期の団領だとわかります。



画像 No.12

重要文化財 朝鮮王国国書 及び別幅  
朝鮮時代・肅宗 45 年(1719)  
東京国立博物館蔵

(本幅)

第 19 代朝鮮国王・肅宗(在位 1674~1720)が、江戸幕府 8 代将軍・徳川吉宗に宛てた国書です。国書は国家間で交わされる外交文書で、吉宗の将軍襲職の祝賀を目的とした朝鮮通信使がこれを捧げました。祝辞となる挨拶文と、朝鮮の名産がならぶ贈呈品目録の別幅からなります。大判で厚手、滑らかで艶のある最上質の紙に美しく整った楷書で記されたこの国書は、朝鮮王朝の外交と文化の粋を伝えています。

【本件に関するお問合せ】

「韓国美術の玉手箱」広報事務局(共同 PR 内)担当;三井

E-mail:kankoku.tamatebako-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL: 03-6264-2382

〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 10F